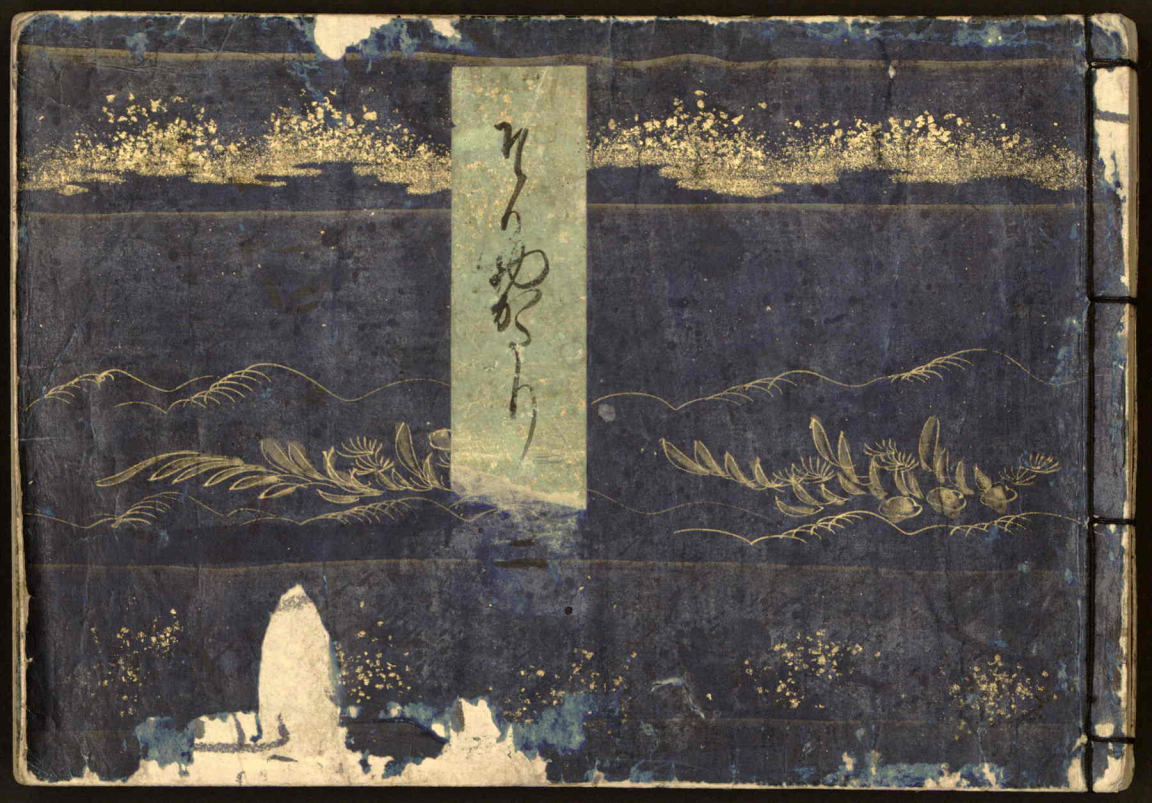


2

PL755
.35
505, v.2

當我物語巻第二目録

おなしくいとうか死をうる
いとうの次郎ともけるか
さうへんのす
よりともいとうのあらに
まし申す

THE LIBRARY OF CONGRESS

羽置賜郡
万
前法師標

ゆのくいとうの死をう
ま
ゐをいとうしゆくこれを
ゆうをうをてをうをうが
くのうらしてわをうんを
ををうをうくををうをうを
しわうをうわをうをうしを
しをうのゆをのうをのを
ゆうをうしをうのをうを
をうをのをうをうをうあの
うをうくをうをうくをうを
ををしうゆをうをうをを
ゆうをわををうをうをうん

にさみすかくれとゝこゝに
てらさきのへりうくなく
はみすこさるかたこまいるき
みめしそなくりけつその時
みんなかりけるつと
ましてこゝてとゝかし
けるにうるみのきすさうく
きさもなきさもみすそく
あなたりくなきけませく
うしろりおくのこゝへ
うともへてらとうまつあれ
こゝれつくこゝまてそこそ
むこかしこなるさうなりけ

いぬさなけまいしてなくよう
かのよりすしかりうちく
ねりなみてをゆきへてい
ひけりいしなりぬうきせのな
らひなれともせりてなり
まありなんとまらまへし
されいしておまえわる子まし
わす又けとおる中の方
まてもなしいらいせんとなけ
きけるこうしりなれたく
りぬとのうつの法をけ
ちうまひきうけるこ
のおうさ山とまてちくして

やまのいとをとりてこれをみるに
ものとしんとんとしてあり
てとりこしかわるしを
ゆるしまくるるゆい
てんとりちりてこと
りんとそしてまつてゆ
くしとりやくわうてんん
ゆとくみりしまつてれうて
きこのこしらしてこのる
いるとゆのまるのめし
とみとりてゆつてあ
てとりとりまんとりで

これをきゝてうらまぐしん
あるをいしてたきにしよう
しひきゆきされへのこゝ
かりのをあらせにけらと
ゆゑやありてくらしける
なつきをつきつまいしこい
まのゆりせしそしやせんを
うましくゆりへ人このよう
いるかとなくきやうまつぬそ
んまさうすまてすし
まさんとそんすりとこうまゝ
やまのまつてそ也くもれん
いるまさいしるつしとにひ人

よりてのよりてこそまつる
ゆひすてるこそつのこと
ゆりいしてるわまさりり
すつのしるしんこそそん
よわりやくまるすいわと
こゆのしこそしつのそん
りんこそつねのりんさん
そのしりてるとるりよ
このこそりをさゆるけるく
りこゆやくしていこ
のりりんりんこそりわ
るりよこやりりりりさ
りこそすけこそのいまこ

よろせにつきてを　おやすみなされ候
おろそおろかにてくれてく
わろうすめよういとを
いしくしくしみけいはより
のらいろつゑとおらうすな
ましものおやしくのらへし
なをきてすくいしてまつ
みなさけげくとらきのみけ
まてらきひまいりくへしと
てりん申まちてうろへわたし
さんわさくいてそてらめし
ぬうてはすつりゆかし
いよくりつてく　七月廿三

月の

ふるのさと

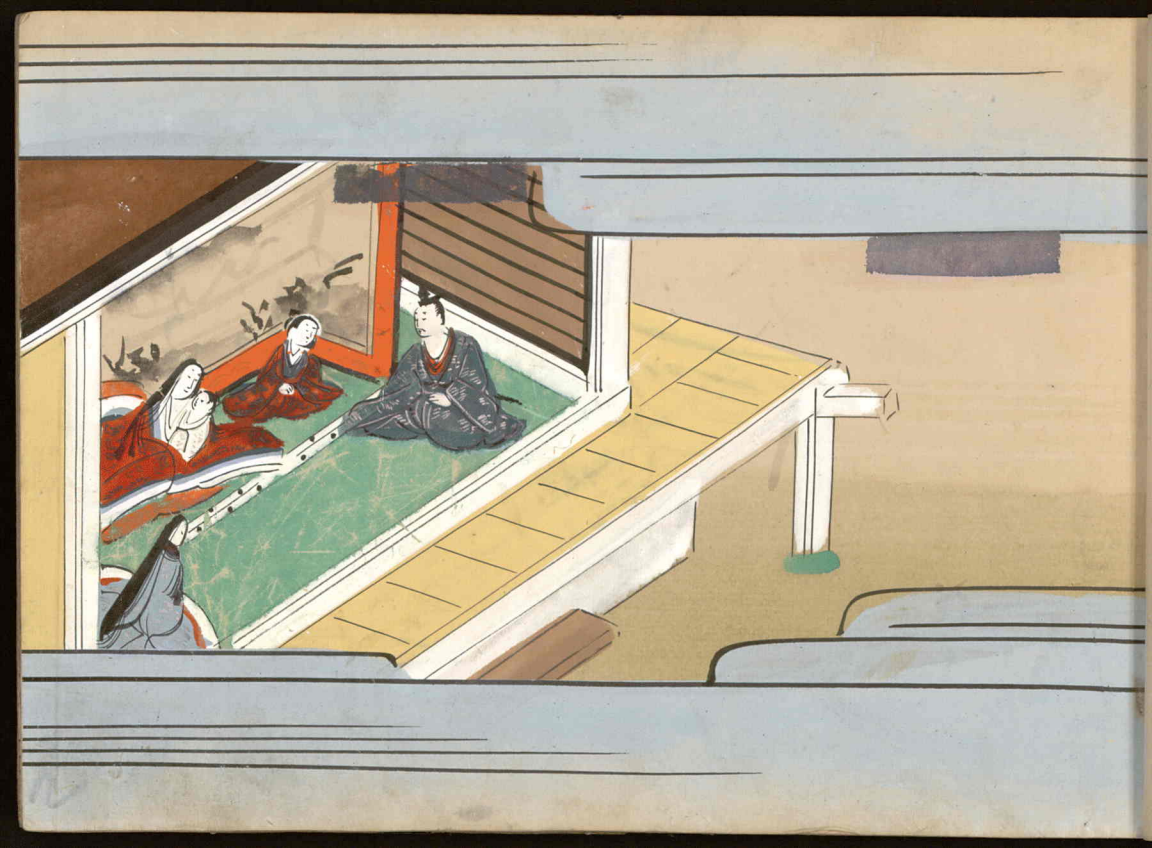
深草にて

ちる

ゆく

あれ寺に

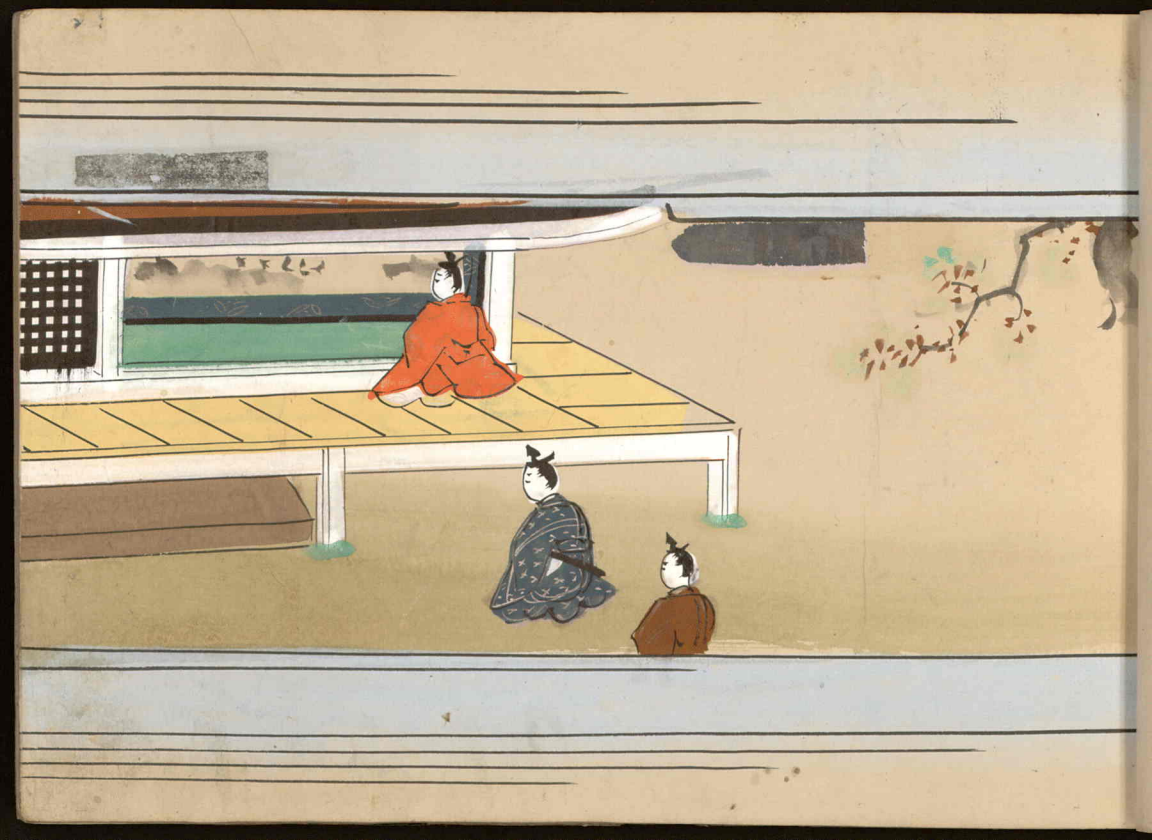
ふるさと



おしのうつ三郎にうつまいなけ
くよしなりしとも三てまい
きたつのまゆをひきたと
ゆのてたうのうたをそおっ
こけるいこんのまゝあくいせう
つまりといつもつまりい
きそんりむくうなひまて
とゑいくとゝゆかへけるやて
うつはわらゑとおいとしの
こちゆへうりなひしそんを
るむのあるれはわまのうな
ちうあるうしまてこけまも
なしもれしすけうやうといた

ちかのうの百姓に一ちやうき
ゆ之平よりてらしてきよ
せんのらうせつをつとと
人れとそゝゆをまつと
きいゆのいのまきこゝやと
ゆ之りつるゝきいしやう
よつてゝるとくゆもとい
ろくそのこいうろゆやとん
しりるそゆつるゝたゝる
いろいんゆときのこと
つけくそゆしるゆやとん
とゝつをまゝてそんく

さもくもとゝのくとうもけつ
とうにやてむすめまんとう
こもんうおうもそのおきあひ
くしてしやうらしするうち
小和殿のりんさんまへもけつ
とは京とにこめときわゝ
いうあつそくうけつそのら
いうむくしきさあひの人
もうけをゆとなしきりのも
なし三まくらはゆきてに
もけちつんしてまうつるし
もけつ○はいやしきの一三まと
もたらあんせきりりり



きこしめしてのこりたるを
ゆるしたまはるべきことの
よしをもつてまうしあげ
たまへばこれをもつて
ものまうしのこしたる
ものどもをあつめて
ものまうしのこしたる
ものどもをあつめて
ものまうしのこしたる
ものどもをあつめて
ものまうしのこしたる
ものどもをあつめて

うたさうまつりけるれと
ませんあらとあしんしあん
なりしてすひをまゐれ去
しうんをまゐしゐせき
ゆうまはれ回のみちをん
まりけんてうのしうつまを
つんしてうのまうまつまり
いくとうのやきゆとととそ
のされけりまあさいよりしや
おうけつひてまいきしし
くしてゆとうまんしやう
すりれいのうすけつひ
すくんまくしとてホつさいよ

してしやうぶのこゝろをつく
こゝろつかひをしてけり
いとゝのこゝろをしるべ
こゝろんのの
こゝろをしるべかなしてきこ
しやうぶのこゝろをつくこゝろおも
こゝろのこゝろの面つゞき
てこゝに又こゝろをゆき
ゆこゝろをこゝろつくこゝろ
こゝろのこゝろのこゝろ
こゝろをいはゞ
こゝろこゝろのこゝろ
おもゆこゝろ人をしやこゝろ

よいてしまひけるとなりてこ
ゝろもとなんのこゝろもとなる
とのよりてくやうをしるのそ
ゝろをしてこの八こ年のあ
ひだにこゝろをしりけるこゝ
ろをしりてこのこゝろを人
さんとていふなとをもひ
ものこゝろをしりてこゝ
ろをしりけるこゝろを
ひとにさとるこゝろ
をしりてこゝろを
とをしりてこゝろを
とをしりてこゝろを
とをしりてこゝろを

てきをとりしつめゆや
ろくまひひつゐとこゑくす
せんすしきりのりのう
つまんのこくまくへこにわ
らまのかすみのにとし
のかやそしやさうとそわ
めつてそひわうれのくう
つまとうしるかめんもんと
まうし中納の御ゆるされ
くさいしとものてとと京
こゝあしのかせまよのち
きやうすの時そのさすれ
ようこえまとやありらやう

のしいよせいかうもとゆきや
うをけうさんしやうくりの
ひしりゆまとりんとゆせを
あぎやのめつもこりゑ
えんきをみるまあいろ
てきよけしいうこんうけと
まさんいろくぜんなれいう
ちあなすとみくうさん
いまやあきやうまとにうう
ゆりしてすけのうまかつ
さうすしうむのんなれは
わきうしんとこれもぬ
うんこれをかりひあきま

うんとすまでてやこれを
げかす元りんぬとらへ元きん
これをけがすこちりまろ
てかんりんいえものそこにら
てむすく年月をくら
月をけつ〇うかんまぢもて
こ〇てゆれをなりかよ
さぐそれらくいつの国
のちゝへいとのくとう一帝
年のすけつ〇こ〇てこん
じやう
こゆゆさいきまをうかん
とかつもうきさいのすみぎ

そんのてゝやわらかなるこゝろの
へだてもなくまことをのべたる
ぜんしゝんをけぶつとぞのべ
たまへるこゝろをもつてぶつ
ぜんをもつてこゝろとなす
ゆへにぶつぜんをもつてこゝろ
となすゆへにこゝろをもつて
ぶつぜんをなすなり
ぶつぜんのこゝろをもつて
こゝろとなすゆへにこゝろを
もつてぶつぜんをなすなり
ぶつぜんのこゝろをもつて
こゝろとなすゆへにこゝろの
ぶつぜんをもつてぶつぜん
をなすなり

しかるその時をけつ〇いしやう年
のさいなりきはちらつのこう
まちがんりんさま母たまあつは
はきして八ヶ年の美秋とらる
はやうしまわしをいさしうの
さんをもしつさやさまやんよの
けいまりやいとうの二ヶ年
まれりくさうくをけつ〇ま
のりくさっさうてんのこう
つまりつあてがんたうのしやう
さいとおのんとかつをよつ
てやいけうやいらうごん
しやうたんのごとし

ゆんわん二年三月日平乃
まけつ〇とうきてけぐ皇
しまよりこのしやうとひん
まてけしわたらこうるさま
まてひかるよと人こよりわ
ひるいこんちやうちやうしらい
まけつ〇の中拙てとしていか
よるしこれいさいきよせん
いかんたうまそむきるん又
いまうしうりをのかせてたん
しふきやうとこのむとこ
殺たすけつ〇いけうなる
うんこうるすれ其のわて

くつをうちとけていわんとの
しるこゝろをてをとりてなぐさ
うしとゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）

西のたいにすむ人ありけりそれを本い
何はかみなことわりは
いきよふんすをそひこらの
ゆかりの時いけのまなとる
らんすのをそてとしれみたり
又をとけつゝ世はいゆきいに
まもなけし今なんそすが
のめしらうつやきひく
ありゆくさすいてこうて
とかありわかあて京て
まてすむしはせんていなゆや
めつんありいてうけ
うしろへひてし

ふるさとをあてにしてゆくのこと
を終てをかりそうろうきろ
ろうそくゆきのこんで
ろうそのひとくいけやこと
つきてきそうろうれいこと
のんろうひてをけちろ
らて事をてんしてをん
こらをんとやりしんつきと
ろうそのきしんつきのいろう
こうこうこうこうこうだう
つをんろうをんこうろうつを
ひしのかんをすきこうら
ちうのおこうろうこうこし

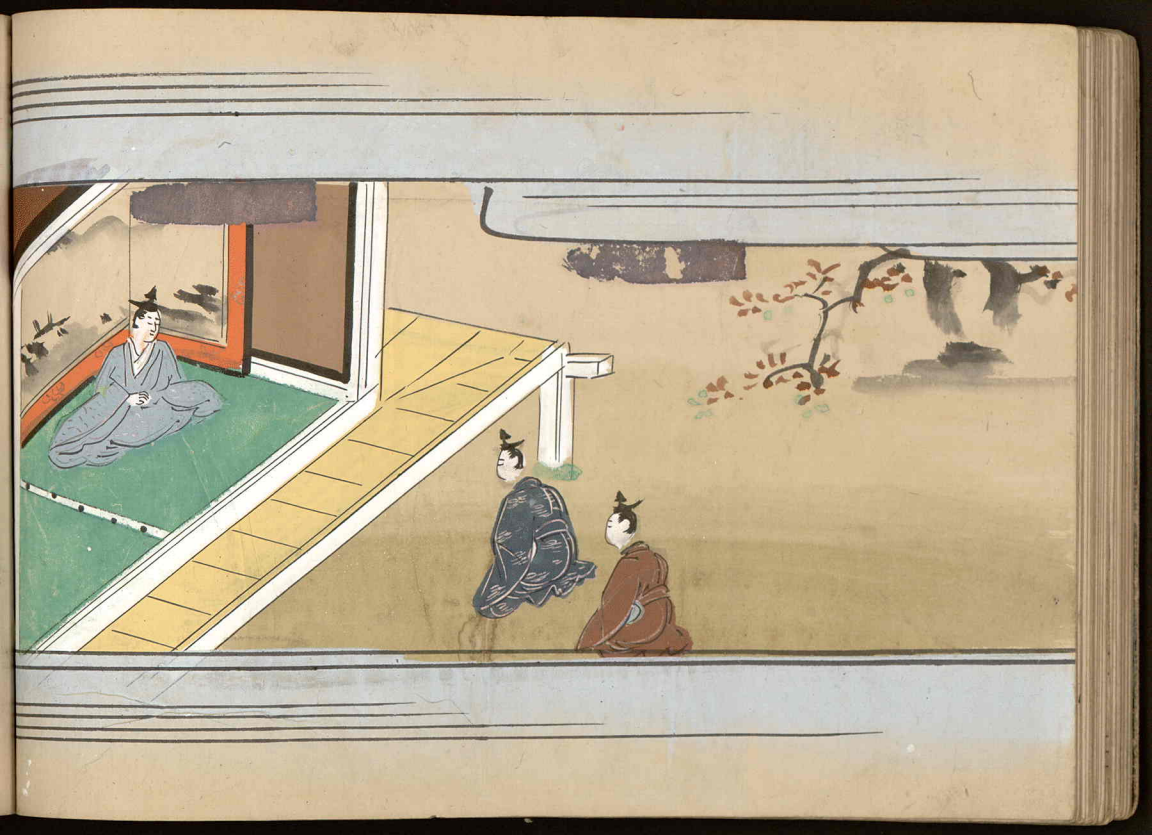
すいとうかむしをもはりい
てんじゆかりへもうかぬへ
きうやまつ一ぬらやまと つ
ぬとまと三ことうりまは
ゑりぬやとまあよつそくの
中ゐらうしやとうとくかつ
てゆうるすうやうよ三ゐ
三すそゆうくしきいる
りしつまあうへきりのぬや
おまつきへつまつ比をうぐん
すあうしきとうけうす
とまけらううりきてちや
くしうの三命をけしけ

二曲いとうの命明信その外
一りんらうせうよひあつかよう
しんきひしくしけ三けきに
力まゆよりすこれやあつき
ましてせんとなしやもく
ひんせむましこうとなし
てしといへうこうゆりひ志
うきこれうのらいとうの
二命はすまのまく京と
へうてうへやてなくもけ
つまをかんおへのこそもて
年くさまくこうまゆきてい

[illegible]
うしろ[illegible]ぬ[illegible]のゆき[illegible]
[illegible]して又[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やうなるものとも○さまを
てをりくさつやきけうの
〳〵つかまつりけるてん
のうをとりまはしやうや
くまつりまいらせうろう
くやうをいたしてをれつてを
とりのつかまつりをらつて
よりはやくさまわるまつる
今はいのうをすてゝをつて
りいるやとおもひあらまて
りをんなりうまつりまわす
ひてきをうちつかまつる
らまくうをうけたまはり

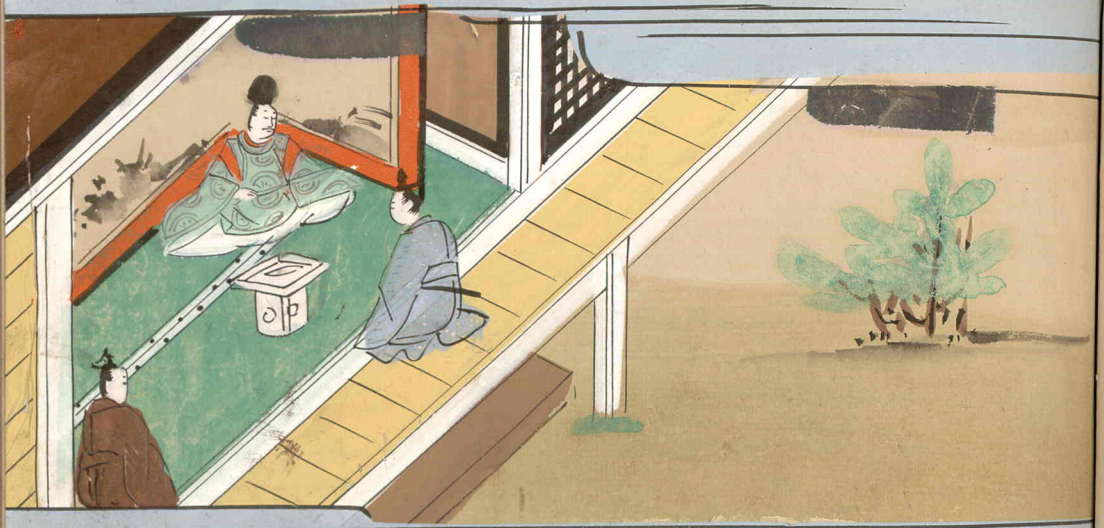
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



よりともいとまのしちに
ましゆすす
こておほゑやりていしとと
ねしぬつきひきとうらいけ
かれしぬくのうつひやしなの
とけのいとまのしちに
ましけるとうつまさまれ
のちかへたんのてしけの
とうりのきてりんよりあひ
さりうしけるまけるい
これらいむしけんしのちう
こうなりしうしきたいつけ

のぶみんとりてきたりと
そこうもとこうたりうのの
のうとりてきるあるすい
さやをけなのうつしうへ
うてうもんきものも
うんあるのるのてるさ
つてうてうてはるのか
うりゆきんりてもうる
つてうてんるへあさ
ちゆうぐうさいうりて
うりうやけうこれてきて
みうるうるのうるうと
うきかんゆうのやうやう

くしいろの[illegible]
の[illegible]ゆるしく[illegible]
の[illegible]
しめとしてむ[illegible]の人を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

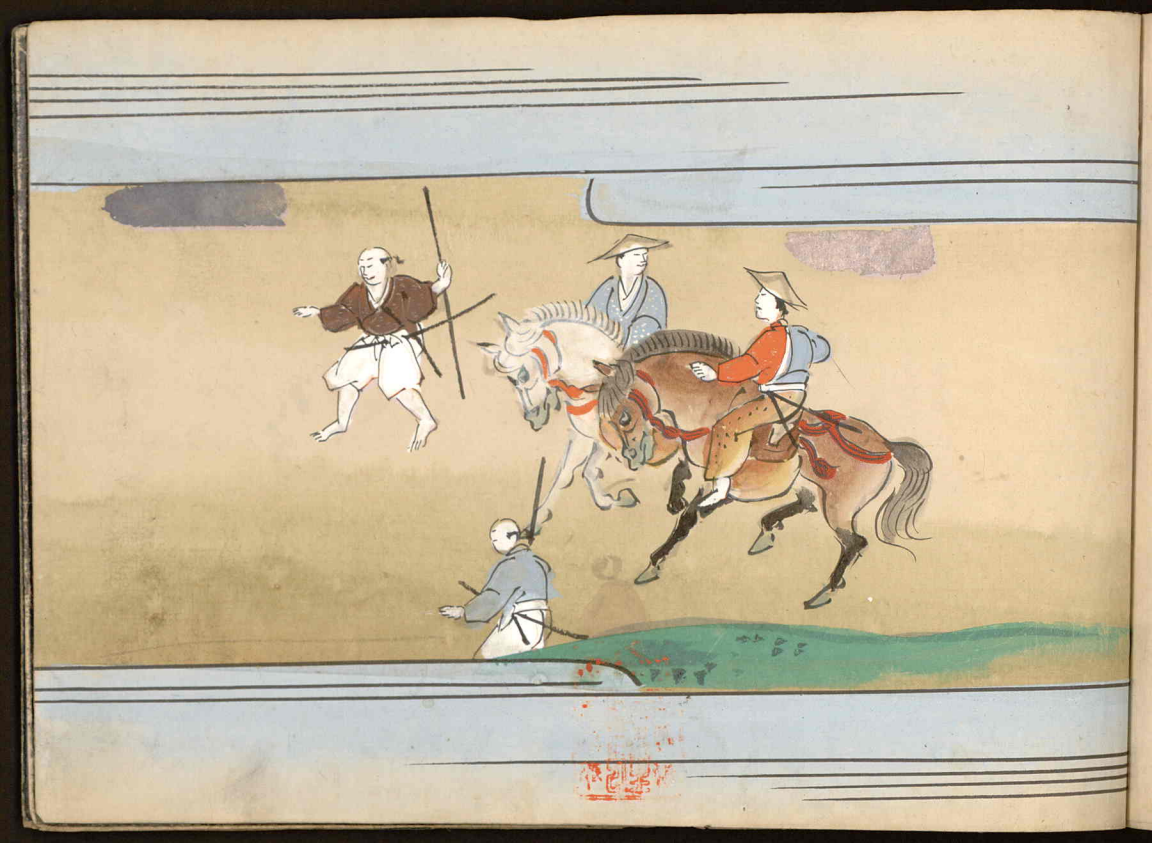


てきこえてさんらのちとのつよ
てうるこえそうとてるすくろ
みたいるのたんへゝゝけりい
こうさうのしるまうるをを
ひとうとてうて国ちう
せたのようしてけたうゆ
ゆるけたのゝへりのしうり
しまのしいもをのとをる
つまうもうしのんすうと
ていりたいいたこれとさて
ちりうをんてうそしてえ
ちるの人ていうちうあうら
いのうしいまのさうさし

きてせんぬひやうし
んをそれうをてらうの
ゐやをとりかりてそい
をやをしいろをいろ
のんのをあるらづい
りをみひんのをそ
ん四りいやろうとそん
をんをけをいうりて
をものうをやをある
いうをんーと思をかり
をものやをそやをの
するれいちゆいてあ
ををんををををら

わたしたちはこんなにしあわせなのに
ゆきのなかをひとりのこされて
わたしのかなしみはゆくへもなく
みまもりたいとおもうのに
ひとりぼっちでらっぱをふき
音楽をあつめるひとびとを
ながめるばかりでこうやって
ふるえながらいきているの
ながいながいあいだ
りっぱなみなさまの中には
しらないでいらっしゃる
ながいながいあいだ
ながいながいあいだ

いづこ山とぬとして七ゆ月
つきかつてうねしひかり
雲ちいとゝい国つくんの大
名にて古のなつかしさお
かりかれいこゆとくろ
つきやしてなりけるこの
のちか

こゝろを
はしけ
を
さ毎ことへて
いのつきしうそ
なき

羽
置賜郡
前
法師柳